

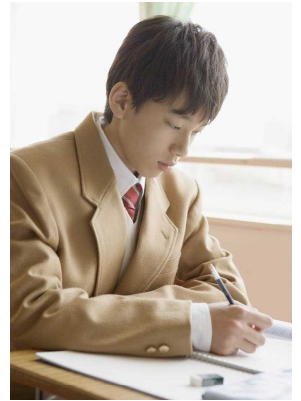
テスト本番に強くなる30の方法 Vol.6

テスト本番に強くなる方法 (21)

「知らない会話でも、何か返事をする。」

「空白を埋める」という行為は、人間性を形成する基礎になる。

テストではどんなにわからない問題が出題されても、空欄は絶対に埋めることです。空欄のままでは、点をもらえる可能性はゼロです。しかし、わからなくてもいいから何か書けば、点をもらえる可能性があります。運もテストの点数に反映されます。この「わからないから空欄のままにする」という行為には、実はテストでスコアを得るだけでなく、もう1つ深い意味があります。



「返事のできる人間性を形成する」という重要な意味があります。

テストで「わからないから空欄のままにする」という癖がついてしまうと、人間関係では苦労します。誰かに話しかけられたとき「知らないことは返事をしない」という人間に育ってしまうからです。テストであれ人間関係であれ「知らないことはほうっておく」という根底部分は同じです。人に話しかけられたとき、内容がわからないから返事をしないのでは、トラブルになります。知らないから返事をしないのは「無視」と同じです。コミュニケーションが完全に中断され、人間関係もうまくいくはずがありません。わからなければ、わからないなりに返事があるはず。「知識不足でわかりません」でもいいですし「教えてください」という返事でもいいでしょう。会話のキャッチボールを継続することです。適当な返事でもいいから、とにかく無視は避けることです。

これは重要です。未知の会話が登場しても、わからないなりに何か返事をすれば、コミュニケーションが続くことでしょう。下手な会話でもいい。大切なことは「とにかく返事はする」という姿勢です。何でもいから答えを埋める習慣によって、人間関係のうまい人として育っていくのです。

テスト本番に強くなる方法 (22)

「普段は夜型の人でも、試験前には朝型に戻す。」

試験前には、リズムを朝型に戻す。

人によっては、そもそも夜型の人もいることでしょう。夜のほうが静かで、性格に合っていると感じる人がいるのもたしかです。塾のせいで夜型にならざるを得ない人もいることでしょう。試験日が近づいてくると、知識不足を感じ始めるようになるため焦り、気づけば夜型になっていることもあります。自分の生活リズムに合わせた時間帯に勉強するのが一番です。普段は夜型でもいいですが、試験日が迫れば、朝型に戻す工夫を忘れないでください。試験は日中に行われるからです。しかもほとんどの場合、午前の早い時間から始まります。夜型の人が、いきなり朝早くにテストを受けようとしても、なかなかうまくいきません。生活リズムがずれてしまうと、頭の回転が鈍くなり、本来の力を発揮できなくなります。本当はうまくいくはずが、寝ぼけていたので、うまくいかなかったのでは話になりません。準備を始める目安としては、試験日1週間前からです。いつもより30分早く寝て、いつもより30分早く起きます。これを繰り返していけば、1週間も余裕があれば、生活リズムの調整ができることでしょう。大切なことは、試験日にベストコンディションになるよう調整することなのです。



テスト本番に強くなる方法（23）

「ティッシュとハンカチは必ず持参する」。

今、ティッシュとハンカチを持っている人が少なくなっています。ポケットに入れるのは面倒という理由がほとんどです。しかし、どんなに面倒でも、試験の日は必ず持参しましょう。心配事を1つでも減らすためです。ささいなことですが、助けられます。

「トイレで手を拭くとき」「ちょっとした汚れを拭き取るとき」「くしゃみをしたときにでた鼻水」「夏場にかいた汗を拭くとき」「鼻をかむとき」「突然、道で転んで、膝を擦りむくこと」もあるでしょう。ハンカチやティッシュは万能です。お手洗いはもちろん、体調不良から突然の事故まで、幅広くカバーできます。おおむね初歩的な応急処置なら、対応できることでしょう。小さなハンカチとティッシュですが、心労は大きく減ります。試験の日くらいは試験のことだけ集中するために、ハンカチとティッシュは必ず持参しましょう。邪魔になるとはいえ、いざというとき助けられるアイテムなのです。



テスト本番に強くなる方法（24）

「模擬試験の受験料は、自分のお金で払う。」

模擬試験の受験料は、自分の財布から出す。

模擬試験や入試を受けるとき、受験料は誰が出していますか。学生ですから、ほとんどの場合、親からお金を出してもらう場合が多いことでしょう。当たり前といえば、当たり前です。しかし、その当たりの流れが、いつの間にか模擬試験や入試を受ける

ときのやる気を小さくしている場合があります。親のお金ですべて出してもらおうと、やはり気持ちが緩みます。「どうせ自分のお金じゃないし、落ちて大丈夫」と試験を受ける価値が低くなり、勉強へのやる気が薄らいでしまいます。試験に向けた独特の緊張感も小さくなります。

しかし、自分のお金で受ける場合、どうでしょうか。自分が一生懸命にアルバイトで貯めたお金で模擬試験や入試の受験料を支払うと、試験に向けた気持ちが引き締まります。多少なりとも自分の財布が痛むため「金額の元は取ってやろう！」という気持ちが自然と出てくるようになります。

「元を取ってやろう」という意地が「勉強しなければ！」というやる気へと変化します。受験料とはいえ、何万円もするものではないはずですが、十分にお金に余裕のあるわけではない学生にとって、厳しい現実もあるでしょう。「お金でやる気を買っている」と考えればいい。やる気を出して、模擬試験や入試として効果を十二分に発揮するためにも、自分のお金で受けることをおすすめします。自分のお金が絡むと、やる気を出すのが人間なのです。

